

# 保育現場における幼児の音楽的な表現活動の一考察

—教育実習後のアンケート調査をととして—

岩佐 明子、富田 英子

保育現場では、子どもの発達を援助するために音楽を用いた様々な活動が行われている。本研究では、保育現場における音楽活動を探るため、教育実習を経験した学生に、実習中に行った音楽活動と実習園で実践されていた音楽活動に関するアンケート調査を実施した。実習生が実習園から求められた音楽活動及び実習生が見聞きした保育現場の音楽活動を探り、保育者養成校の音楽系科目で指導すべき内容及び保育現場における子どもの音楽的な表現活動について検討した。

キーワード：教育実習、音楽、保育の表現技術

## 1. はじめに

保育現場では、子どもの発達を援助するために様々な表現活動が複合的な目的を持って行われている。その中でも音楽的な表現活動として、うたう・きく・ひく・うごく・つくる<sup>1)</sup>といった5つの活動を目的とすることがある。また、生活習慣を身につける、季節感や行事についての理解を深める、保育環境を整える、協同作業の喜びを味わう、自由な表現が出来るなど、発達を援助することを目的に音楽が用いられることがある。音楽的な表現活動の中で、特にうたう活動はその他4つの領域との密接な関連が指摘されており<sup>2)</sup>、多くの保育現場で実践されている。

このような保育現場における音楽的な表現活動を踏まえ、将来、保育者となる学生に必要な保育の表現技術を修得させるために、本学では「器楽Ⅰ（1年次前期開講科目）」、「器楽Ⅱ（1年次後期開講科目）」、「器楽Ⅲ（2年次前期開講科目）」、「器楽Ⅳ（2年次後期開講科目）」、「声楽Ⅰ（1年次前期開講科目）」、「声楽Ⅱ（1年次後期開講科目）」、「幼児音楽Ⅰ（1年次後期開講科目）」

「幼児音楽Ⅱ（2年次前期開講科目）」の8科目を開講している。また、「器楽Ⅰ」、「器楽Ⅱ」、「声楽Ⅰ」、「声楽Ⅱ」、「幼児音楽Ⅰ」、「幼児音楽Ⅱ」の6科目は、幼稚園教諭二種免許及び保育士資格取得のための必修科目である。「器楽Ⅰ」及び「器楽Ⅱ」は、「バイエルピアノ教則本やブルクミュラー25及び18の練習曲を始め、子どもの歌の伴奏を通して基礎的なピアノ演奏法及び音楽知識を修得し、「声楽Ⅰ」及び「声楽Ⅱ」は、基礎的な発声法と子どもの歌の歌唱法を修得する。さらに、「幼児音楽Ⅰ」及び「幼児音楽Ⅱ」は、簡易伴奏法、保育現場で使用される楽器の指導法、子どもに対する音楽の指導法を総合的に修得する。1年次の後期授業終了後に幼稚園の「教育実習」の前半が行われ、2年次の前期に後半が行われる。そのため、「幼児音楽Ⅰ」及び「幼児音楽Ⅱ」では、「教育実習」に対応できる、より実践的な音楽に関する保育の表現技術と指導法を獲得させるべく授業展開している。

しかし、幼稚園から課題として出された子どもの歌の演奏法や、子どもへの歌の指導など、音楽的な表現活動に関わることに不安を抱きなが

ら実習に臨んでいる学生が見受けられる。本研究は、幼稚園での「教育実習」における音楽活動に関するアンケート調査を実施し、「実習生が実習園から求められた音楽活動」及び「実習生が実習園で見聞きした保育現場の音楽活動」を分析し、授業内容を検討することを目的としている。

「実習生が実習園から求められた音楽活動」として、多くの実習生が取り組んでいる鍵盤楽器を使用した活動を取り上げる。先行研究として、実習生が鍵盤楽器を用いて演奏した楽曲の楽曲名及び作曲者の実態調査<sup>3)</sup>、楽曲を「生活の歌」と「季節の歌」に分類した報告<sup>4)</sup>、楽曲を年齢別に分類した報告<sup>5)</sup>、楽曲が使用されている実習園の合計数の報告<sup>6)</sup>等多くの報告がなされている。本研究では、保育の場面を6項目（朝、昼食、帰り、表現遊び、楽器遊び、その他）に区切り、どの場面で何の楽曲を演奏したかを問い、さらに楽曲を4種類（季節に関わる歌、生活の歌、聖歌など、その他）に分類し、より詳細な調査及び考察を試みる。また、学生が実習で演奏した感想と授業で学んでおきたかった点を調査し、今後の授業展開における課題を探る。

「実習生が実習園で見聞きした保育現場の音楽活動」として、実習生が行った音楽活動ではなく、実習生が見た幼稚園における歌の指導法及び音楽を用い身体を伴った表現遊びについて探る。実習期間という限られた期間に見聞きした音楽活動であり、保育現場における音楽活動全体を捉えられるものではないが、実習生の視点による保育現場の音楽活動を探り、授業内容を検討する一助としたい。

## 2. 方法

### (1) 調査対象者

「教育実習」を終了した本学幼児教育学科2回

生225名を対象とした。

### (2) 調査時期

2016年6月に行われた「幼児音楽B（第10回目授業）」において調査した。

### (3) 調査内容

調査内容は、実習に関する以下の項目である。

①配属されたクラス、②鍵盤楽器を演奏した頻度、③鍵盤楽器を演奏した場面と楽曲、④鍵盤楽器で演奏した楽曲の選曲方法、⑤鍵盤楽器で演奏した楽曲の難易度、⑥鍵盤楽器を演奏した感想、⑦鍵盤楽器以外に行った音楽活動、⑧実習園で行われていた歌う活動、⑨実習園の歌の指導法、⑩音楽活動で使用していた楽器の種類、⑪音楽を用いた表現遊びの種類<sup>7)</sup>の全11項目である。本稿では、①、②、③、④、⑤、⑥、⑨、⑩を取り上げた。②、③、④、⑤、⑥は実習生が鍵盤楽器を使用して行った活動に関する項目であり、⑨、⑩は実習生が見聞きした実習園の音楽活動に関する項目である。

①配属されたクラスでは、「3歳児クラス」、「4歳児クラス」、「5歳児クラス」、「混合クラス」から複数回答可で選択させた。②鍵盤楽器を演奏した頻度では、「全く弾かなかった」、「1、2度弾いた」、「2、3日に1度弾いた」、「毎日弾いた」から選択させた。③鍵盤楽器を演奏した場面と楽曲では「朝」、「昼食」、「帰り」、「表現遊び」、「楽器遊び」、「その他」から選択させ、それぞれの活動時に演奏した楽曲名を記入させた。④鍵盤楽器で演奏した楽曲の選曲方法では、「実習先から事前に渡された」、「実習先から実習中に渡された」、「実習先から大学で学んだ曲を演奏するように言われた」、「その他」から選択させた。⑤鍵盤楽器で演奏した楽曲の難易度では「大変難しい」、「難しい」、「普通」、「易しい」、「とて

も易しい」から選択させ、その理由を自由記述で回答させた。⑥鍵盤楽器を演奏した感想では、「良かった点」、「反省点」、「授業で学んでおきたかったこと」について自由記述で回答させた。⑨実習園の歌の指導法では「新しい歌を教える場面を見た」と回答した学生に対して、「CDをかけて教えていた」、「ピアノを弾いて教えていた」、「楽器を使わず歌って教えていた」、「歌に関する内容の紙芝居、ペープサート、絵などを見せて教えていた」、「その他」から選択させた。⑩音楽を用いた表現遊びの種類では、「音楽に合わせた表現遊びやリズム体操、ゲームをしている場面を見た」と回答した学生に対して、楽曲名とどのような動きをしていたかを自由記述で回答させた。

#### (4) 調査方法

質問紙を使用したアンケート調査を実施した。回収率は100%であった。

#### (5) 倫理的配慮

調査対象者には、アンケート調査の回答は任意であり授業の評価とは無関係であること、回答者の個人を特定しないものであること、教育・研究の目的以外には使用しないことを文書で説明した。

### 3. 調査結果

#### (1) 配属されたクラス

実習生が最も多く配属されたクラスは5歳児クラスで66名(29.3%)、次いで様々な年齢のクラスに数日毎に配属された実習生は58名(25.8%)であった。4歳児クラスに配属された実習生は56名(24.9%)、3歳児クラスは40名(17.8%)、混合クラスが5名(2.2%)であった。

#### (2) 鍵盤楽器を演奏した頻度

実習生が実習中に鍵盤楽器を演奏した頻度は、「1、2度弾いた」が67名(29.8%)、「毎日弾いた」が66名(29.3%)、「2、3日に1度弾いた」が65名(28.9%)であった。「全く弾かなかった」は23名(10.2%)であった。

#### (3) 鍵盤楽器を演奏した活動時間帯と楽曲

実習中に鍵盤楽器を演奏したと答えた202名中、保育のどのような場面で演奏したか、活動時間帯と演奏した実習生の人数、楽曲数を表1に示す。各活動時に演奏した楽曲は、「季節に関わる歌」、「生活の歌」、「聖歌など」、「その他の歌」の4項目に分類した。分類、楽曲名、演奏した実習生の人数を表2～6に示す。表2は「朝」、表3は「昼食の時間」、表4は「お帰り」、表5は「表現遊び」、表6は「楽器遊び」の活動時である。「その他の時間帯」の活動種類を表7に、分類、楽曲名、演奏した実習生の人数を表8に示す。なお、異なる活動時間帯で重複した楽曲を省いた楽曲の実数は、192曲であった。

表1 鍵盤楽器を演奏した活動時間帯と人数

活動時間帯	人数	楽曲数
朝	151	107
昼食	129	31
帰り	136	41
表現遊びの伴奏	22	25
楽器遊びの伴奏	10	10
その他の活動	79	86

表 2-1 「朝」に演奏した楽曲（季節に関わる歌  
生活の歌・聖歌など）

分類	曲名	人数
季節に 関わる歌	かたつむり	24
	かえるの合唱	13
	ながぐつマーチ	13
	とけいのうた	8
	にじ	8
	あめふりくまのこ	7
	にじのむこうに	4
	大きな古時計	3
	すてきなパパ	3
	びわ	3
	あめ	2
	くじらのとけい	2
	だから雨ふり	2
	たなばたさま	2
	あまだれぼったん	1
	かえるのかぞくが	1
	カエルのギター	1
	くじらのうた	1
	しゃぼんだま	1
	パパはママが好き	1
ハミガキのうた	1	
みずあそび	1	
虫歯建設株式会社	1	
生活の歌	おはようのうた	42
	おはよう	41
	おとうばん	32
	せんせいおはよう	8
	おはようチャチャチャ	4
	おむねをはりましょ	4
	だしてひっこめて	4
	おきよう	3
	あさがきたんだ	2
	あさのうた	2
	おかたづけ	2
	おてて	2
	おはおはおはよう	2
	はをみがきましょう	2
	お・は・よ!	1
	おなまえ	1
	おねむり	1
	おへんじ	1
	おべんとう	1
	Good morning	1
	せすじをのぼしましょう	1
	手をあわせ	1
	手を出して	1
	トントン前	1
	聖歌など	ほとけさま
黙想の曲		8
ねね		4
ありがとうの言える子に		3
ちいさいおてて		3
ばらばらおちる		3
のんのののさま		2
イエスさまってよんだら		1
いまささぐ		1
おつとめ		1
おねんじゅおててに		1
回向		1
かみさまにかんしゃ		1
こころをあわせ		1
この花のように		1
勢至さま		1
月影		1
マリアさまのこころ		1
見ていてね		1

表 2-2 「朝」に演奏した楽曲（その他の歌）

分類	曲名	人数
その他の歌	曜日の歌	3
	さんぽ	3
	おひさまキラキラ	3
	わたくしたちは	2
	めだかのがっこう	2
	ぼくらは仲間	2
	ニヤニユニョのてんきよほう	2
	どんどんマーチ	2
	せんせいとおともだち	2
	一週間のうた	2
	あなたのお名前は	2
	幼稚園歌	1
	ゆりかごのうた	1
	夢をかなえてドラえもん	1
	勇気 100%	1
	ホップステップジャンプくん	1
	ふしぎなポケット	1
	ひとりじゃないさ	1
	ひげじいさん	1
	ピクニック	1
	ばん!ばん!ばん!	1
	バレード	1
	にんげんっていいな	1
	何月何日何曜日お天気は	1
	とんでったバナナ	1
	ツッピンとびうお	1
	そらのとり	1
	前奏曲	1
	世界中のこどもたちが	1
	こころのごはん	1
	声をあわせて	1
	きらきら星	1
きつとできる	1	
風はともだち	1	
おひさまになりたい	1	
おばけなんてないさ	1	
おつかいありさん	1	
おさんぽ日和	1	
うたえバンバン	1	
ありさんのおはなし	1	
アイアイ	1	

表3 「昼食の時間」に演奏した楽曲

分類	曲名	人数
季節に関わる歌	かたつむり	2
	たなばたまつり	1
生活の歌	おべんとう	109
	おとうぼん	29
	なんでも食べる子	4
	のんののののさま	4
	おかたづけ	3
	給食のうた	3
	ごちそうさま	3
	いただきます	2
	おきよう	2
	お昼のうた	1
	おはしの体操	1
	おひる	1
	さよならのうた	1
	はをみがきましょう	1
聖歌など	黙想の曲	10
	おいのり	3
	ちいさいおてて	3
	恩徳讃	3
	きれいな心に	2
	お祈りの歌	1
	食前、食後のおいのり	1
ほとけさま	1	
その他の歌	あなたのお名前は	3
	きらきら星	3
	ゆりかごのうた	3
	イップニップジャンプ	1
	ちょうちょ	1
	ねむれねむれ	1
	やくそく	1

表5 「表現遊び」で演奏した楽曲

分類	曲名	人数
季節に関わる歌	あめふりくまのこ	4
	かたつむり	4
	にじ	2
	にじのむこうに	1
	大きな古時計	1
	おとうさん	1
生活の歌	かえるの合唱	1
	パパはママが好き	1
その他の歌	あくしゅでこんにちは	2
	きらきら星	2
	じゃんけん列車	1
	うさぎ	1
	でんしゃ	1
	たぬき	1
	ぞうさん	1
	うちゅうせんのうた	1
	かもつれっしゃ	1
	マーチ	1
	サンサンたいそう	1
	世界中のこどもたちが	1
	だしてひっこめて	1
	ちょうちょう追い	1
	ツッピンとびうお	1
	むすんでひらいて	1
	わごむになれ	1

表4 「お帰りに」に演奏した楽曲

分類	曲名	人数
季節に関わる歌	かたつむり	6
	ながぐつマーチ	5
	かえるの合唱	4
	にじ	3
	あめふりくまのこ	2
	すてきなパパ	1
	くじらのうた	1
生活の歌	とけいのうた	1
	おかえりのうた	61
	さよならのうた	40
	おとうぼん	16
	さよならさんかく	8
	さよならマーチ	3
	Good bye	2
	Good bye song	2
	さようなら	2
	see you again	1
	おかたづけ	1
	お辞儀の音	1
	サヨナラ明日もね	1
	さよならグッバイ	1
出発だ	1	
聖歌など	せんせいさようなら	1
	はをみがきましょう	1
	またね	1
	さよならほとけさま	3
	ちいさいおてて	3
	ほとけさま	2
	お祈り	1
その他の歌	見ていてね	1
	きつとできる	2
	園歌	1
	くいしんぼうのありさん	1
	手をたたきましょう	1
	ばん！ばん！ばん！	1
	むすんでひらいて	1
	ニヤニヤのてんきよほう	1
	しりとりうた	1
	ホップステップジャンプくん	1
	まほうのおまじない	1
めだかのがっこう	1	

表6 「楽器遊び」で演奏した楽曲

分類	曲名	人数
季節に関わる歌	かえるの合唱	1
	ながぐつマーチ	1
	にじ	1
その他の歌	おもちゃのマーチ	1
	おばけなんてないさ	1
	手をたたきましょう	1
	おおきなたいこ	1
	きらきら星	1
	クラリネットをこわしちゃった	1
	グリーングリーン	1

表7 「その他の時間帯」の活動の種類

活動の種類	人数
歌唱の時間	17
部分実習・設定保育	16
活動の前の導入	16
黙想	2
余った時間	2
待ち時間	2
リトミック	2
ゲーム	1

表8-2 「その他の時間帯」に演奏した楽曲  
(聖歌など・その他の歌)

分類	曲名	人数
聖歌など	黙想の曲	4
	夢をかなくてドラえもん	4
	さんぽ	3
	世界中のこどもたちが	3
	めだかのがっこう	3
	おはながわらった	2
	アンパンマンのマーチ	2
	ごきげんいかが	2
	せっけんさん	2
	ぞうさん	2
	サザエさん	2
	手をたたきましょう	2
	星に願いを	2
	もりのくまさん	2
	勇気100%	2
	アルゴリズムたいそう	1
	あなたのお名前は	1
	うたえバンバン	1
	うちゅうせんのうた	1
	おおきなたいこ	1
	おかあさんとおさんぽ	1
	おたまじゃくし	1
	おつかいありさん	1
	おひさまになりたい	1
	おはようクレヨン	1
	かもつれっしゃ	1
	かわいいかくれんぼ	1
	くじらのバス	1
	汽車ぼっぼ	1
	きみのこえ	1
	こころのごはん	1
	そうだったらいいのにな	1
	ジャガイモジャガー	1
そらにらくがきかきたいな	1	
スマイル	1	
手を出して	1	
ともだち賛歌	1	
どんぐりころころ	1	
どんな色がすき	1	
ニヤニヤのてんきよほう	1	
バイキング	1	
バスごっこ	1	
ポッポの時	1	
ぼくのミックスジュース	1	
ふしぎなポケット	1	
ミッキーマウスマーチ	1	
ゆめいっぱい	1	
ヤンチャリカ	1	
その他の歌	かたつむり	22
	とけいのうた	12
	すてきなパパ	9
	にじ	9
	かえるの合唱	8
	あめふりくまのこ	6
	ながぐつマーチ	3
	にじのむこうに	3
	大きな古時計	2
	たなばたさま	2
	南の島のハメハメハ大王	2
	虫歯建設株式会社	2
	あめふり	1
	おとうさん	1
	おなかのとけい	1
	くじらのとけい	1
	だから雨ふり	1
	とけい	1
	とけいさん	1
	時計屋の時計	1
	パパとスキップ	1
	パパのふく	1
	パパが子どものとき	1
	パパの手	1
	ぴよんぴよんかえる	1
	虫歯のこどもの誕生日	1
	みずあそび	1
おとうぼん	5	
おかたづけ	4	
はをみがきましょう	10	
おきよう	1	
おやすみ	1	
おててをあらいましょう	1	
おやつ	1	
公園にいきましょう	1	
子守歌	1	
気分整理	1	
はをみがこう	1	

表8-1 「その他の時間帯」に演奏した楽曲  
(季節に関わる歌・生活の歌)

分類	曲名	人数
季節に関わる歌	かたつむり	22
	とけいのうた	12
	すてきなパパ	9
	にじ	9
	かえるの合唱	8
	あめふりくまのこ	6
	ながぐつマーチ	3
	にじのむこうに	3
	大きな古時計	2
	たなばたさま	2
	南の島のハメハメハ大王	2
	虫歯建設株式会社	2
	あめふり	1
	おとうさん	1
	おなかのとけい	1
	くじらのとけい	1
	だから雨ふり	1
	とけい	1
	とけいさん	1
	時計屋の時計	1
	パパとスキップ	1
	パパのふく	1
	パパが子どものとき	1
	パパの手	1
	ぴよんぴよんかえる	1
	虫歯のこどもの誕生日	1
	みずあそび	1
生活の歌	おとうぼん	5
	おかたづけ	4
	はをみがきましょう	10
	おきよう	1
	おやすみ	1
	おててをあらいましょう	1
	おやつ	1
	公園にいきましょう	1
	子守歌	1
	気分整理	1
はをみがこう	1	

(4) 鍵盤楽器で演奏した楽曲の選曲方法

「実習で演奏した楽曲をどのように選曲したか」という質問には、「実習先から事前に渡された曲を演奏した」が最も多く129名(66.5%)、「実習先から事前に渡された曲と実習中に渡された曲を演奏した」が13名(6.7%)、「実習先から実習中に渡された曲を演奏した」が11名(5.7%)、「実習先から大学で学んだ曲を演奏するよう言われた」が8名(4.1%)、「実習先から事前に渡された曲と大学で学んだ曲を演奏した」が5名(2.6%)、「実習先から実習中に渡された曲と大学で学んだ曲を演奏した」が4名(2.1%)、「実習先から事前に渡された曲、実習中に渡された曲、大学で学んだ曲を演奏した」が3名(1.5%)であった。

(5) 鍵盤楽器で演奏した楽曲に対して感じた難易度など

「鍵盤楽器で演奏した楽曲に対して感じた難易度」の質問には、「大変難しい」と回答した学生が3名(1.4%)、「難しい」が40名(19.8%)、「普通」が90名(44.5%)、「易しい」が49名(24.2%)、「とても易しい」が13名(6.4%)であった。

感じた難易度の理由を自由記述で回答させ、記述内容を読み取り分類した。「大変難しい」と「とても易しい」の回答者は少なかったため、「大変難しい」の回答は「難しい」の回答と合わせ、また「とても易しい」の回答は「易しい」の回答と合わせ分類した。「大変難しい」及び「難しい」と感じた学生の記述内容と件数を表9に、「普通」と感じた学生の記述内容と件数を表10に、「易しい」及び「とても易しい」と感じた学生の記述内容と件数を表11に示す。

表9 「大変難しい」及び「難しい」と感じた学生の記述内容と件数

記述内容	件数
練習する期間が短かった	10
子どもの表情を見ながら共に歌い伴奏すること	6
簡易伴奏ではなく難しい版の楽譜を渡された	6
知らない曲だった	5
子どもの前で緊張した	3
左手が複雑だった	3
和音が弾きにくかった	3
曲数が多かった	2
ペダルの使用が難しかった	2
音域が広がった	2
子どもの前で弾くために暗譜しないといけなかった	2
黒鍵が多かった	2
リズムが取りづらかった	1

表10 「普通」と感じた学生の記述内容と件数

記述内容	件数
弾きやすい曲だった	16
授業で学んだ曲だった	16
事前に渡されており練習できた	14
前期実習で弾いていた	13
簡易伴奏にして良かった	7
簡単な楽譜だった	6
練習では弾けたが子どもの前では練習通りにいかなかった	4
短い曲で弾きやすかった	3
自分で選曲できた	2
練習した曲は出来たが、急に渡された曲は難しかった	2
知っている曲は出来るが、知らない曲は難しい	3
音符は読めるが、リズムが難しい	1

最も件数が多かった項目「弾きやすい曲だった」の16件の内訳は、「左手が弾きやすく簡単」が5件、「思ったより簡単だった」が3件、「同じパターンの繰り返し」が2件、「右手が旋律」が2件、「調号が少ない楽曲」が1件、「リズムがわかりやすい」が1件だった。

表11 「易しい」及び「とても易しい」と感じた学生の記述内容と件数

記述内容	件数
右手が旋律で左手が和音の伴奏だった	12
左手が簡単だった	8
簡単な楽譜だと感じた	8
授業で学んだ曲だった	4
知っている曲だった	5
前期実習で弾いていた	4

(6) 鍵盤楽器を演奏した感想

「良かった点」、「反省点」、「授業で学んでおきたかったこと」の各項目を自由記述で回答させ、記述内容を読み取り分類した。「良かった点」の記述内容と件数を表12に、「反省点」の記述内容と件数を表13に、「授業で学んでおきたかったこと」の記述内容と件数を表14に示す。

表12 「良かった点」の記述内容と件数

記述内容	件数
子どもの様子を見ながら演奏できた	54
止まらずに最後まで演奏できた	44
子どもの前で弾き歌いをする経験ができた	17
間違わずに演奏できた	15
子どもが楽しそうに歌ってくれた	13
前期の実習より弾き歌いに慣れ落ち着いて演奏できた	11
子どもの歌に合わせて演奏することができた	10
実習園の先生に褒めていただいた	7
弾き歌いをしている途中で子どもへ声かけができた	6
授業で実習の曲をレッスンしてもらえた	5
表現力豊かな演奏ができた	5
十分に練習し実習に臨むことができた	4

表13 「反省点」の記述内容と件数

記述内容	件数
間違えた	44
弾き歌いの演奏時に子どもを見ることが出来なかった	33
テンポが速くなった	23
止まってしまった	21
練習量が足りなかった	15
歌詞を先歌いできなかった	15
自分自身の歌声が小さかった	11
弾き直しをしてしまった	8
暗譜すべきだった	5
多くの曲を準備しておけば良かった	5
自信を持って弾き歌いできなかった	4
弾きやすいようにアレンジできなかった	3
子どもに合わせてだけでなく、自分の表現もできれば良かった	1
歌っていない子どもへ援助が出来なかった	1
楽譜通り弾けなかった	1

表14 「授業で学んでおきたかったこと」の記述内容と件数

記述内容	件数
弾き歌いの経験	30
様々な場面に合わせた楽曲	16
先歌いの練習	18
簡易伴奏の方法	11
鍵盤楽器の奏法	10
歌唱指導法	8
リトミック	1

「弾き歌いの演奏時に子どもを見ることが出来なかった」と回答した33件の内、11件は「ピアノを弾くことに集中してしまったため子どもを見ることができなかった」と記述している。

「弾き歌いの経験」と回答した30件の内訳は、「弾き歌いの練習がしたかった」が14件、「自分の伴奏で皆が歌う経験」が6件、「子どもを見ながら弾く練習」が5件、「弾き歌いのコツが知りたい」が4件、子どもの声に合わせる練習」が1件だった。

「様々な場面に合わせた楽曲」と回答した16件の内訳は、「季節の曲」が8件、「お辞儀の伴奏」が2件、「定番曲」、「リズム曲」、「表現遊びの曲」、「子どもを引き付ける曲」、「静かな曲」、「行動の合間の短い旋律」が各1件だった。

「鍵盤楽器の奏法」と回答した10件の内訳は、「ペダルの使用方法」が3件、「間違えても止まらない方法」が3件、「音域や速さを変化させる方法」が2件、「初見」が1件、「エレクトーンの奏法」が1件だった。

(7) 実習園の歌唱指導方法

「保育者が新しい歌を教える場面を見たか」という質問には、「見た」と回答した学生が122名(54.2%)、「見ていない」が101名(44.9%)、「無回答」が2名(0.9%)で、「見た」学生が半数以上であった。さらに、「見た」学生にその指導法について複数回答可で選択させたところ、「ピアノを弾いて教えていた」が115名(94.3%)と最も多く、それ以外は「CDをかけて教えていた」が8名(6.6%)、「楽器を使わず歌って教えていた」が10名(8.2%)、「歌に関する内容の紙芝居、ペープサート、絵などを見せて教えていた」が11名(9.0%)、「その他」が4名(3.3%)と少数であった。「その他」の内容については、歌詞を模造紙に書いて示す、歌詞の意味を教えるとい



うものであった。

#### (8) 実習園の音楽を用いた表現遊びの種類

「音楽に合わせた表現遊びやリズム体操、ゲームをしている場面を見たか」という質問には、「見た」と回答した学生が123名(54.7%)、「見ていない」が96名(42.7%)、「無回答」が6名で、「見た」学生が半数以上であった。さらに、「見た」と回答した学生に対して、楽曲名及び活動内容を自由記述で回答させた。楽曲名の回答は、子どもの歌やそれらを編曲したものが多く見られたが、正確性に欠けるものが多々あったため、集計から除外した。活動内容は①リズム体操等運動遊び、②表現遊び、③ゲーム遊び、④ダンスの4つに分類した。各活動の具体的な記述内容を、件数が多い順に以下に示す。

##### ①「リズム体操等運動遊び」(49件)

音楽に合わせて、「歩く」、「走る」、「跳ぶ」、「止まる」、「しゃがむ」、「伸びる」、「ゆれる」、「ひねる」、「回る」、「転がる」、「這う」等基礎的な身体の動きが中心となっている。様々な動きを取り入れることで、子どもたちが身体の動きや変化を楽しめるように保育者が援助している様子がうかがえる。

##### ②「表現遊び」(42件)

「動物」、「虫」、「植物」、「自然」、「乗物」、「人物」など、形や動きが明確なものの形態を模倣する遊びである。保育者は、子どもたちの想像力を高めるため、楽曲の「リズム」、「強弱」、「音の高低」、「速度」、「調性」等の変化を付けることにより、子どもの自発的で自由な表現を引き出し、創造性豊かな表現へと導いている。

##### ③「ゲーム遊び」(11件)

「じゃんけん列車ゲーム」等のジャンケン遊びや、「イスとりゲーム」等の集団遊びが多く見ら

れた。子どもが動く時に音楽を停止する、または速度を変化させることで様々な動きや遊びが生まれ、子どもは、保育者及び友達と一体感を味わうとともに、遊びをとおしてルールを学んでいる。

##### ④「ダンス」(8件)

円形、列、二人一組など様々な隊形を組み合わせて踊りをさせている。また、布やパラバルーン等を用いた活動も見られた。保育者は、音楽に合わせて子どもたちが互いの身体の動きや表情を見ながら進めていけるよう援助し、集団による表現活動へ展開させている。

## 4. 考察

### (1) 実習園から求められた音楽活動

実習生は、3歳から5歳のクラスにはほぼ同人数配属されていた。また、58名(25.8%)の実習生はクラスを配属されず、様々な年齢のクラスを数日毎に回るよう指示されていた。このことから、実習において様々な年齢の幼児に対応できる保育力が求められていると考えられる。

実習生が鍵盤楽器を演奏した頻度を問う設問の回答では、約30%の実習生が「毎日弾いた」と回答しており、様々な機会に鍵盤楽器を演奏し保育している姿がうかがえた。「毎日弾いた」、「2、3日に1度弾いた」、「1、2度弾いた」を合わせると、約90%の実習生が鍵盤楽器を演奏する機会を与えられており、実習までの授業において、実習に対応できる鍵盤楽器を使用した保育の表現技術を修得する必要があると考えられる。

実習生が鍵盤楽器を演奏した活動時間帯を問う設問の回答では、楽曲数と演奏した実習生数共に「朝」が最も多かった。しかし、演奏した楽曲を確認すると、登園時に行われる朝の会ではなく午前中の活動で演奏した楽曲として回答したのではないかと予想される。設問項目を

「朝」ではなく、「朝の会」、「午前中の活動」に区分すれば、各活動で使用された楽曲が明らかになったであろう。全ての活動時間帯において10人以上の実習生が演奏した楽曲の内、季節に関わる歌は「かたつむり」、「かえるの合唱」、「ながつマーチ」、「とけいのうた」であった。同じく生活の歌が「おはようのうた」、「おはよう」、「おとうばん」、「お弁当」、「おかえりのうた」、「さよならのうた」、「はをみがきましょう」であった。さらに聖歌などの曲が「黙想の曲」であった。全ての楽曲の中で、「黙想の曲」以外は歌唱を伴う楽曲であり、弾き歌い伴奏法の修得が重要であると考えられる。

実習で演奏した楽曲の選曲方法は、実習生の約80%が、実習園で使用されている楽曲を演奏するよう促されており、実習生が弾きやすい楽曲や授業で学んだレパトリーを演奏する機会はほとんど与えられなかったことが分かった。また、約15%の実習生が実習期間中に実習園で使用されている楽曲を手にしていないため、短期間でも楽曲を弾きこなすことができる初見力が求められていると言えよう。

実習で演奏した課題曲に対して感じた難易度を問う設問の回答では、約80%の実習生が「普通」、「易しい」、「とても易しい」と回答しており、実習生の演奏技術と実習園が求める演奏技術のレベルはほぼ等しいということがわかった。また、「普通」、「易しい」、「とても易しい」と感じた理由の共通点と、「大変難しい」、「難しい」と感じた理由を合わせ、実習生がどのような楽曲を「難易度が低い」と感じているのかを探った。その結果、練習時間を十分に確保でき、弾きやすく、練習すれば出来る範囲だと感じられ、前期実習や授業内で学んだ経験がある楽曲を「難易度が低い」と感じているのではないかと考えられる。つまり、練習期間を十分に確保

することができなくても演奏できるだけの初見力、楽曲を弾きやすくするためのアレンジ力、練習すれば出来る範囲と認識できる読譜力があり、レパトリー曲として演奏できる楽曲を「易しい」と感じ、子どもの前で余裕を持って演奏できると感じていると推察する。

鍵盤楽器を演奏した感想を問うた設問の「良かった点」で挙げられた自由記述の内容を見ると、「演奏中に子どもの様子を見ることができた」、「音楽の流れを止めずに演奏できた」、「落ち着いて子どもの歌に合わせて弾くことができた」という感想が多く挙げられた。子どもの前で演奏する際の注意点を認識でき、演奏に慣れていった姿がうかがえる。また、10名の実習生は、「子どもが楽しそうに歌ってくれたから良かった」と記述しており、自らの音楽活動によって子どもに音楽の楽しさを伝えられた喜びを感じ取ることが出来たと考えられる。一方、「反省点」で挙げられた自由記述の内容を見ると「良かった点」で挙げられた理由とは異なり、「子どもの様子を見ながら演奏できなかった」、「間違えた」、「子どもに合わせられなかった」、「歌詞を先歌いできなかった」という感想が挙げられている。さらに、「練習量が足りなかった」、「弾きやすいようにアレンジできなかった」、「多くの曲を準備しておけば良かった」という感想も挙げられ、前述した初見力、アレンジ力、レパトリーの必要性が示唆された。

「授業で学んでおきたかったこと」で挙げられた自由記述の内容を見ると、「弾き歌いの経験」と回答した実習生が最も多かった。このことから、「幼児音楽A」及び「幼児音楽B」の授業内で数回、弾き歌いの発表を行っているが、十分な学生の力になっていないことがわかった。また、「様々な場面に合わせた楽曲を学びたかった」、「簡易伴奏の方法を知りたかった」という

回答から、レパートリーの必要性とアレンジ力の必要性が示唆された。その他で挙げられた自由記述の内容を見ると、「ペダルの使用方法」、「速度・音域を変化させる方法」、「先歌い」など、保育現場で行われている鍵盤楽器の実践的な演奏法が挙げられ、「幼児音楽 A」及び「幼児音楽 B」ではこれらの演奏技術を含めた発表の機会が必要であると考えられる。

以上のことから今後、「幼児音楽 A」及び「幼児音楽 B」の鍵盤楽器を使用した音楽活動についての授業内容は、初見力、アレンジ力、読譜力の向上とレパートリーを増やすことが課題となり、保育現場で行われている鍵盤楽器の実践的な演奏法を含めた発表の機会を多く設ける授業内容を展開したい。

## (2) 実習生が見聞きした保育現場の音楽活動

実習園における歌唱指導方法を問うた設問では、「ピアノを弾いて教える」が94%と最も多く、その他、「CDを使用」、「楽器を使用せず歌のみ」、「歌に関する内容の紙芝居等を提示」については少数であった。保育者は、各指導法を単独で行わず、相互に関連づけながら教材や保育の場面に応じて指導していたと推察するが、実習生の気づきが無かったためこのような結果になったのではないかと考える。授業では、保育現場での歌唱指導方法を様々な角度から指導し、保育のねらいや内容、援助等を理解し実践できる力を養うことも必要だと分かった。

音楽を用いた表現遊び等についての設問では、様々な活動が行われていることが確認できた。特に「リズム体操等運動遊び」と「表現遊び」が最も多く、この2つの活動では、ただ身体を動かすだけでなく、歌を歌いながら歌詞に合わせて身体を動かしたり、かけ声や擬音等リズムカルな言葉を発したりと「言葉遊び」の要

素も取り入れられていた。また、「ゲーム遊び」も保育者の主導による言葉がけによって進行されていた。このように、保育の場面や目的に応じて、「身体を動かす」、「歌を歌う」等、単一の表現媒体による活動と、「歌いながら動く」、「言葉を発しながら動く」等の複合した表現媒体による活動が行われており、「音楽」、「言葉」、「動き」を融合させた総合的な表現へと展開されていることが明らかになった。

しかし、日本の伝統的な遊びである「わらべうた」が、ほとんど表現遊びとして行われていないこともわかった。「わらべうた」は旋律やリズムが単調で、話す時と同様に、自然に歌うことができるものである。また、「わらべうた」は伝統的な遊びの要素に加え、活発な活動、楽しい遊びを伴ったものも沢山あることから、授業内で積極的に学生へ伝えていきたい。

音楽活動で使用された音楽について自由記述の記述内容から読み取ると、体操やダンス等保育者が子どもと一緒に動いたり、一斉行動等をする場面では、CD等を使用していた。また、運動遊びや表現遊び等、子どもの動きや反応を見ながら自発的で自由な表現を引き出す場面では鍵盤楽器の使用が多く見られた。近年作曲された楽曲は、リズムやメロディの多様化に伴い高度な演奏技術や表現力が求められるため、指導時に鍵盤楽器以外にCD等を使用することも必要になってくるであろう。しかし、CD等を使用して子どもに対し一方的な働きかけにならないよう配慮することが必要となる。

昨今、保育現場における鍵盤楽器の使用、特にピアノの使用については疑問の声も耳にする。また、採用試験においても、ピアノの実技試験が課されない場合もあり、ピアノを弾けることが必須条件であった保育者として求められる資質が変化しつつあるように感じる。これは、

保育現場において鍵盤楽器の演奏力が不要というわけではなく、保育者養成校へ入学する学生の演奏技術の低下により、「子どもと関われない」、「関わりが希薄になる」、「楽しく活動できない」等が起因していると考えられる。しかし、調査結果より実習生の約90%が鍵盤楽器の演奏を求められ、実習園で行われている歌唱指導は鍵盤楽器を使用して指導する現状が確認された。よって、保育現場における鍵盤楽器の活用度が非常に高いことが明らかになった。保育者は、様々な音楽的な表現活動に対応すべく鍵盤楽器の基礎的な演奏技術の修得はもちろんのこと、それらを保育現場でどう活かし、どう使いこなしていくのか、総合的な指導力が求められている。今後の授業では、子どもの表現力を導き出すことを目的として、音楽を介して関わる方法や状況に応じた教材選択等、保育の表現技術の多様性を向上させることが必要だと考えられる。

## 5. 今後の課題

本研究では、「実習生が実習園から求められた音楽活動」及び「実習生が実習園で見聞きした保育現場の音楽活動」を調査した。その結果、「実習生が実習園から求められた音楽活動」では、実習生が実習園で鍵盤楽器を使用した具体的な活動及び自身の活動をどのように受け止めたのかについて明らかになった。今後は、本研究で挙げられた192曲全てを学ぶことは不可能であるため、多くの楽曲の修得に不可欠な初見力、アレンジ力、読譜力の向上とレパートリーを増やすための授業展開を検討したい。

一方、「実習生が実習園で見聞きした保育現場の音楽活動」の調査では、実習生の観察力に寄るところが大きく、実習園の保育者が意図した保育における音楽活動を正確に捉えられたとは言いがたいものであった。しかし、実習生の視点をとおして幼稚園で行われている様々な音楽的な表現活動を分類できたことは、一定の成果があったと考える。

今後は、実習で使用された楽曲を分析し、保育現場に必要な鍵盤楽器の演奏技術を明確にしたい。また、多岐にわたる音楽活動の具体的な指導計画、実践方法等の効果的な指導法を検討していきたい。

## 謝辞

本研究において協力いただいた高見和樹様、船越建成様、土屋真理子様にご心より御礼申し上げます。

## 引用文献

- 1) 植田光子他、『幼稚園教諭・保育士をめざす楽しい音楽表現』、2009、pp.20-24、圭文社
- 2) 鈴木由美子、「弾き歌い」に関する一考察、千葉敬愛短期大学紀要35号、pp.71-72、2013
- 3) 諸田明子、保育園及び幼稚園における実習曲に関する一考察、全国大学音楽教育学会研究紀要第14号、pp.1-pp.9、2003
- 4) 小澤和恵、保育所・幼稚園実習で求められる音楽活動の考察 - 「生活の歌」と「季節の歌」について -、埼玉純真短期大学研究論文集第2号、pp.37-47、2009
- 5) 飯泉祐美子他、幼稚園教育実習事後アンケート調査報告1-音楽的・身体的な活動の側面に関しての実態調査 -、つくば国際短期大学紀要第40号、pp.65-77、2014
- 6) 教育実習I期間の弾き歌い曲について学生アンケートの調査より、西日本短期大学総合学術研究論集第3号、pp.157-161、2013